

畜産みやぎ

発行所
 仙台市青葉区上杉一丁目16番3号JAビル別館3F
 法人 宮城県畜産協会
 電話 022-723-0733

編集発行人
 大堀 哲

印刷所
 (株)東北プリント



干支 申

もくじ

CONTENTS

会長年頭挨拶	2	低コストふん尿処理施設について	7
知事年頭挨拶	3	実践大生校生の抱負 ＜「先進農業体験学習で学んだこと」＞	7
優秀農林水産業者の表彰について	4	畜試便り＜「しもふりレッド」の さらなる改良を目指して＞	8
平成15年度宮城県農業コンクール受賞者の概要 ...	4	衛生便り＜牛の小型ピロプラズマ病＞	9
宮城県農業公社における イネホールクroppサイレージの取り組み	5	New face	9
涌谷町土づくりセンター 「環境保全型農業を目指して」.....	6	賀春	10

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

URL <http://miyagi.lin.go.jp>
 Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

会長年頭挨拶



宮城県畜産協会長 大 堀 哲

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、稲作が大凶作の年となり、冷夏と日照不足により水稻の生育が平年に比べて遅れ、作柄は「作況指数 69」の著しい不良を示し、これは平成 5 年以来 10 年振りの出来事となりました。そのことは水稻以外にも波及し、畜産におきましては飼料及び家畜敷料としての稲わらの確保に支障をきたしている状況です。さらに三陸南沖地震と宮城県北部連続地震の発生がありました。特に宮城県北部連続地震は直下型の地震のため震災被害は県北地域に限られましたが、水田の液状化や栽培ハウスの損壊等の被害がありました。罹災された農家の皆様にあらためてお見舞い申し上げるとともに、農業に対する震災対策の必要性を痛感いたしました。

また昨年 12 月にはアメリカで BSE が発生しましたが、平成 13 年 9 月にわが国で最初に発生したような混乱はみられず、対策につきましては消費者の皆様からも一定の評価を受けておりますが、今後とも BSE の原因の究明、食に対する安全・安心の手立ては継続していく必要があると思います。

農業を取巻く情勢の変化には目を見張るものがあります。平成 16 年度には米政策改革が始まります。多様な農業の展開が可能な農業特区の全国展開は平成 16 年中に決定されます。方向性は消費者・生活者重視、「官から民へ」・「国から地方へ」、WTO、FTA 等グローバル化への対応へと進んでおります

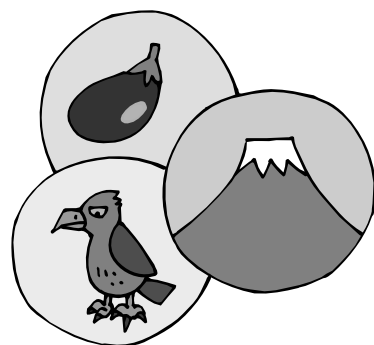
が、そのことは国際競争の中、生産から消費にわたるこれまでの農業の構造を改革するということにあります。農業経営者、地域の特色に応じた特産品の生産への支援の集中、担い手・農地制度の再構築等が進んでいくと思われま

す。本県の畜産は稲作に次ぐ位置にあり、本県経済において重要な産業となっており、畜産業は生産のみならず流通・加工分野など関連産業の幅が広く、地域の特色を生かした特産品の生産が可能なかぎり実行し、そのメリットを最大限に生かし良質で安全・安心な畜産物に対する消費者ニーズに応えていくことも大切であり、さらに国際化の進展、内外価格差や消費者の志向に沿った、効率的な生産・流通によるコストダウンのための一層の努力をしなければなりません。

これらの現状を踏まえ、畜産経営の安定的発展と畜産の振興に寄与する本協会におきましても、生産性の高い畜産経営体の育成のための支援指導事業等、生産から消費にわたる畜産物の安全・安心のための相互理解体制の整備を積極的に推進してまいり所存であります。

ついでには従来にも増して関係機関・団体との連携が最も重要なことと思っておりますので、関係皆様方の尚一層のご指導ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

最後になりますが、畜産農家の皆様と関係者皆様方の更なるご発展とご多幸をお祈り申し上げ年頭のご挨拶といたします。



知事年頭挨拶

拳県一致の体制で
新たな「宮城づくり」を

宮城県知事 浅野 史郎

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、「元気のでるファミリーホスピタル」を目指す、東北で初めての周産期・小児医療専門医療施設である宮城県立こども病院が仙台市青葉区落合にオープンしました。多くの方々の願いによって完成したこども病院が、今後、さまざまな専門家やたくさんのボランティアの皆様を支えられて、その役割を実現していくことを願っております。

また、昨年は、東北高校野球部の夏の甲子園での準優勝や、アマチュア選手としては30年振りとなる女子プロゴルフツアートーナメントでの優勝を果たした東北高校3年生宮里藍選手の活躍など、スポーツ分野での高校生の活躍が目立ちました。県民に夢と希望、そして感動を与えてくれたことに感謝しております。

一方、5月26日には震度6弱の三陸南沖地震が、さらに7月26日には、1日のうちに震度6弱以上を3回も記録する宮城県北部連続地震が発生しました。特に宮城県北部連続地震は、我が国災害史上においても非常に特異かつ激しい地震であり、多くのけが人を出したほか、住宅や公共施設などにも甚大な被害をもたらしました。この災害では、全国からたくさんの心温まる激励をいただいたほか、多くの県民や県内外のボランティアの皆様が救助活動や応急対策の業務に取り組んでいただきました。心からお礼申し上げます。

また、夏の低温や日照不足等の異常気象によって、深刻な農作物被害を受け、特に本県における水稻の作況指数は69(10月15日現在)と、戦後第2番目に低い作柄を記録しました。水稻及びその他の作物を合わせた農作物の被害総額は約400億円にのぼ

りました。県としては、農家のみならず、地域の中小企業にまで被害が及んでいることを厳しく受け止め、引き続き各種の施策をきめ細かく実施してまいります。

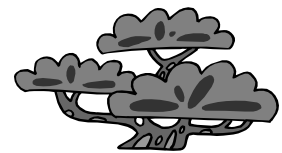
さて、宮城県の経済は、雇用環境、企業活動とも厳しい状況が続いており、依然として低迷しています。県としては、県内の産・学・官の英知を結集した県独自の経済再生プログラム「緊急経済産業再生戦略プラン」を昨年9月に策定したところです。このプランに基づき、雇用の確保と新成長産業の創出に向けて拳県一致の体制で取り組んでまいります。

さらに今年も、近い将来極めて高い確率で発生することが予想されている「宮城県沖地震」に対する総合的な対策に取り組むとともに、「みやぎの福祉・夢プラン」を一層推進するため、高齢者や障害者が地域で充実した生活を送れるようにさまざまな施策を進めてまいります。また、「環境立県みやぎ」の実現に向けた事業や宮城の21世紀を担う人材の育成などにも取り組み、安全や安心、多様性、特性、自然環境、ゆとりといった「真の豊かさ」を体現する地域社会の基盤づくりとして、「福祉、環境、教育」を基軸とした「新しい宮城づくり」を進めてまいります。

また、地方分権の時代にあって、市町村の役割は非常に重要です。本年は、市町村合併において、平成17年3月末に迫った合併特例法の期限にもう手が届く正念場の年でもあります。地域のあるべき姿をどう形にしていくのか、その決断をするのはそれぞれの自治体であり、県民の皆さんです。十分な議論がなされて、納得のいく結論が出されることを期待しております。

本年10月には、全国から障害者の皆さんが集まり、日ごろ培った技能を競う、第27回全国障害者技能競技大会「アビリンピックみやぎ2004」が開催されます。新しい時代にふさわしい障害者の雇用促進と社会参加のあり方を「みやぎ」の地から全国に発信していきたいと思っております。

年頭にあたり、今後とも、県民の皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます、あいさつといたします。



優秀農林水産業者の表彰について

宮城県畜産課

平成15年11月23日(日)に明治神宮会館において平成15年度(第42回)農林水産祭表彰式典が開催されました。

式典では、農林水産大臣をはじめ各界代表者、中央及び地方の農林水産関係者の出席のもと、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の授与が行われました。

本県畜産関係では、次の方々が栄えある賞を受賞されました。心からお喜び申し上げますとともに、ますますの御発展をお祈りいたします。

表彰行事名	品目	市町村	受賞者
平成14年度宮城県 総合畜産共進会	乳用牛 肉用牛 肉豚	丸森町 築館町 豊里町	半澤 善幸 栗駒高原和牛改良組合 (株)ビッグ夢ファーム
第42回仙台牛枝肉 共進会	肉牛枝肉	亘理町	高橋 茂
平成15年度酪農 経営コンクール	酪農	蔵王町	村上 利雄

(家畜改良衛生班 星 昇一)



平成15年度

宮城県農業コンクール受賞者の概要

宮城県経営金融課

今年の畜産分野の受賞者は、次の方々です。

宮城県農業賞(集団経営部門)

有限会社大郷グリーンファーマーズ 大郷町
鶏卵594千個、米42t、ほうれんそう等野菜
130品目ほか

資源循環や平飼いにこだわって生産した鶏卵・野菜等を、消費者へ直接供給する活動を行っている「大郷みどり会」から販売流通部門が独立し、法人化した経営体です。販売部門を専門とするアグリビジネス経営体として、実需者のニーズと生産場面をつなぐ役割を果たしていることが高く評価されました。

宮城県農業賞(個別経営部門)

真壁仁一郎・ふみ子 村田町

乳用牛(経産牛40頭、育成牛13頭)、肥育牛
19頭、水稻90aほか

年間搾乳量9,984kg/頭と高い技術を有して酪農を営んでおり、既に家畜排せつ物を適正に管理し、堆肥として有効利用しています。また、他産業並みの安定した所得を確保していることも高く評価されました。

地域農業賞(集団経営部門)

有限会社ビッグ夢ファーム 豊里町

母豚364頭、肥育豚年間出荷8,009頭

宮城県系統豚「ミヤギノ」の繁殖から肥育までの大規模一貫生産を実践する経営体です。JA養豚部会のリーダー的存在として、地域養豚農家と連携した「宮城野ポーク」の銘柄豚づくりを積極的に推進していることが評価されました。

地域農業賞(個別経営部門)

鈴木秀一・きえ子 瀬峰町

肥育牛33頭、繁殖牛11頭、牧草300a、水稻
225a、田植作業受託90a、刈取作業受託300a

肥育では枝肉格付「A-5」の割合が60%に達しているなど高い飼養管理技術を有していること、地域における中核的な担い手に位置付けられていることが評価されました。 敬称略

(農林漁業経営指導班 今野嘉徳)

宮城県農業公社における イネホールクロップサイレージの取り組み

(社)宮城県農業公社

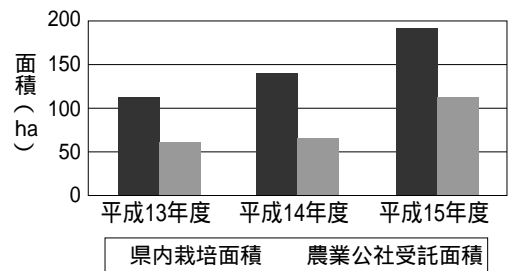
はじめに

近年、牛海綿状脳症(BSE)や口蹄疫の発生により、輸入粗飼料に頼らない良質かつ安全な国産粗飼料の確保と給与が非常に重要となっています。また、生産調整における土地利用型作物の麦類、大豆の生産過剰による需給調整の問題も取りざたされており、麦類、大豆に代わる水田有効利用を目的とした飼料作物の生産、特に水田機能を維持したままで飼料生産が可能である作物、稲発酵粗飼料(イネホールクロップサイレージ)が注目され、国産粗飼料の自給率向上に有効であることから、その生産と利用拡大が期待されています。

宮城県における稲発酵粗飼料の栽培面積は平成13年度が追加的助成等の効果もあり約111haで、平成14年度は約139haで取り組みが行われました。

農業公社では収穫調製受託作業を平成13年度より実施しており、初年度は60.2ha(全体の54%)、平成14年度は64.1ha(全体の46%)、平成15年度についても全体約190haのうち110ha(全体の58%)の収穫調製作業を受託し作業を行いました。

【宮城県におけるイネWCS取り組み状況】



イネホールクロップサイレージ収穫調製受託作業への取り組み経緯

農業公社では、耕種・畜産農家のニーズに応える。県内全域における作業受託面積の確保が可能である。省力的な収穫調製技術確立の実証などのメリットが考えられる。以上の理由により、国・県の指導のもと補助事業により専用機械(コンバイン型収穫機、ラップマシン)を平成13年度に2セット、平成14年度に1セット導入し、湿田での生産調整対応の柱とし稲発酵粗飼料を推進、受託システムを確立し積極的な取り組みを行いました。また、作業効率のアップを目指し平成15年度にも自走ラップマシン1台を導入しました。

【宮城県農業公社イネWCS専用機械保有状況】

導入年度	導入事業名	導入機械	台数
平成13年度	畜産振興総合対策事業 (国庫事業)	ホールクロップ収穫機	1台
		自走ラップマシン	1台
平成13年度	みやぎの水田農業確立対策事業 (県単事業)	ホールクロップ収穫機	1台
		自走ラップマシン	1台
平成14年度	生産振興総合対策事業 (国庫事業)	ホールクロップ収穫機	1台
		自走ラップマシン	1台
平成15年度	生産振興総合対策事業 (国庫事業)	自走ラップマシン	1台
	(合計)	ホールクロップ収穫機	3台
		自走ラップマシン	4台



収穫作業



ラッピング作業

(作業料金)

収穫・梱包・ラッピングまでの作業を10アール当たり25,200円(標準型)と設定し、4.0ヘクタール以上の団地化されたほ場(団地型)については22,700円で実施しています。(乳酸菌添加の場合は別途料金追加)

イネホールクロップサイレージ給与実証について

白石牧場(黒毛和種繁殖牛400頭の周年放牧、常時親子720頭規模)において平成13年度、平成14年度に給与実証試験を行いました。平成13年度は12月から3月までの冬期間に周年放牧中の妊娠中期~末期の繁殖牛の1群20~30頭に草架を利用した自由採食、飽食給与を行いました。初めての試みでしたが、配合飼料を減らし給与した結果、嗜好性も良く牛も好んで採食し、過肥傾向となりましたが分娩への影響は特に見受けられませんでした。

平成14年度は繁殖経産牛2頭(11歳8産、4歳1産)に対する給与肥育実証試験に取り組みました。イネホールクロップサイレージを100日間給与した後に、配合飼料を給与した結果、2頭とも高い評価を得ました。

また、ラップサイレージは6重巻きで密閉を確保したため、カビの発生もなく発酵品質も一定で大変良好でしたが、穂の部分の選び食いが多く観察されたため、穂と茎葉を混合するなどの給与の改善が必要でした。

今後に向けて

水田機能を維持し、粗飼料増産を図る目的で大麦と稲による二毛作実証試験を南方町の公社保有地で実施し今後の普及を目指しております。また、今年度イネWCS専用品種（クサホナミ、クサユタカ）による作期幅の拡大と多収穫によるコスト低減を目的に、県内での適応性を探る栽培実証試験を実施し、栽培可能であることが証明されました。給与についても牡鹿牧場で粗飼料多給型低コスト肥育実証試験を行っており、消費者に安全で値頃感のある牛肉を提供してゆく予定です。

農業公社では「耕畜連携」を重要視し、遊休農地の再利用、転作ほ場の集団化とあわせ播種時期の調整による収穫適期（黄熟期）作業の平準化などを推進し、国内粗飼料の増産と国内資源の有効活用を目標にイネホールクroppサイレージの普及・定着に一層努めていきたいと考えています。

(畜産振興班 佐藤光美)



農業公社牡鹿牧場における
粗飼料多給型低コスト肥育実証試験

涌谷町土づくりセンター 「環境保全型農業を目指して」

古川家畜保健衛生所

平成15年5月に竣工した涌谷町上郡にある“涌谷町土づくりセンター”を紹介します。

土づくりセンターは、畜産経営に伴って生じる家畜糞尿等による畜産公害を未然に防止し、生活環境の保全と畜産の振興を図るとともに、完熟堆肥の活用による町内での有機農業を推進するため、(社)宮城県農業公社が実施する大崎東部地区畜産地域環境負荷軽減対策事業により、涌谷町が整備しました。施設の運営等については、町内の循環型農業を標榜するE C O有機利用組合(畜産農家23戸)に、平成15年7月より管理・運営を委託しております。



施設は、切り返しと強制通気による堆肥化を進める堆肥舎方式で、畜産農家で一次処理した未熟堆肥を受け入れるための一次発酵槽3室(テント密閉式)、2次発酵槽6室、製品堆肥貯蔵室1室及び堆肥調整兼副資材室1室を備えた施設となっており、その他に管理室及び機械格納庫等を備え、延べ建物面積としては、967.14㎡となっております。また、本施設は悪臭対策として、一次発酵槽からの強制吸気方式により、悪臭を含む室内空気を2次発酵槽に

下部から送気して脱臭する堆肥脱臭装置を装備し、極力、悪臭の発生を低減するようになっています。



生産される堆肥は、組合員並びに一般農家においても利用できるように施設維持経費から算出した販売価格が設定され、減化学肥料・有機肥料利用による安心安全な農産物生産に利用されるようにしています。



(指導班長 岸田忠政)

低コストふん尿処理施設について

宮城県畜産課

前号ではシート利用あるいは既存の堆肥盤等とシートを組み合わせた処理方法について紹介しました。

床面にシートを利用した施設は県内でも既にいくつか設置例があります。写真は酪農家で設置した例ですが、シート上部に掘削土を戻し、園芸用ハウスで屋根掛けをしたものです。この施設の場合、水分含量の高い排せつ物を堆積し、頻りに繰り返し作業等を行った場合には、床面が泥濁化することも考えられ、作業性に問題が出てくる可能性があります。



作業性の改善を図ったのが写真の施設です。この施設も基本的にはこの施設と同様ですが、シート上部に戻した掘削土に固化剤を混合し繰り返し作業等の作業性を格段に向上させています。また、堆肥舎の擁壁に担当する部分は廃コンパネを利用し、附設したシートを1m程度の高さまで立ち上げた他に厚手の廃ビニールを高さ2m程度までコンパネに貼り、排汁の滲出対策も行っています。なお、このハウスでは側壁への動圧対策としてパイプを2重構造とする補強対策を施しています。



これらの施設は、単一で使用することを考えた場合には、ふんの水分含量が高い酪農や規模の大きい農家には不向きであり、小規模の肉牛繁殖経営や肥育経営に利用できる施設として考えています。

(草地飼料班 島貴康雄)

< 農業実践大学校生の抱負 >

「先進農業体験学習で学んだこと」

農業実践大学校畜産学部
1年 天野 雄太



私の50日間の体験学習は、七ヶ宿町の酪農家、桜井光雄さんにお世話になりました。

学習内容は、フリーストール・ミルクングパーラー方式の管理方法や乾乳牛、育成牛、初産牛についての飼養管理、繋ぎ飼いとフリーストールの違いについてなど、他にもたくさん

ことを学びました。

私の家では、フリーストールではなく、繋ぎ飼いなので、桜井さん宅の飼いは、私にとって何もかも新鮮で、我が家の経営とは全く違うものだったため、とてもよい勉強になりました。

我が家と桜井さん宅の経営の違いは、まず搾乳では、我が家は人が搾乳する牛の所まで機械を運ばないといけないパイプライン方式に対して、桜井さん宅は、牛が搾乳するところまで来てくれるミルクングパーラー方式です。また、エサでは、我が家は、それぞれ別々に与えていますが、桜井さん宅では、TMRといって、きちんと栄養を計算してもらい、決められた量のエサをすべて混ぜて、食べ物のかたよりがないようにして食べさせていました。これらの点が、我が家と桜井さん宅との主な違いでした。

先進農業体験学習を終えて今までと変わったことは、今までは、我が家の酪農の手伝いをしていても、何の関心も持たず、ただ手伝っていただけで、別の酪農家にもあまり興味を持てなかったのですが、今では、我が家の経営にも、別の酪農家の経営にも大変興味が出てきて、前より積極的になりました。

50日間という短い期間でしたが、この経験を活かし我が家の経営がもっとよくなるようにがんばっていきたいと思います。

< 畜 試 便 り >

「しもふりレッド」のさらなる改良を目指して

宮城県畜産試験場

系統豚「しもふりレッド」が完成してまもなく 2 年になろうとしています。宮城県畜産協会が配布生産者に対しておこなったアンケートによると、農場ごとに成績の違いはあると思いますが、概ね次のような感想としてまとめられました。

- 肉豚の発育がよく、肥育期間が短縮された。
- 脂肪の乗りがよく、枝肉格付が向上した。
- 種雄豚の繁殖能力（乗駕欲、精子活力）が弱い。
- 種雄豚の体型（体幅、体長、体高）にばらつきがある。

、 から肉豚出荷成績は高く評価され、改良の効果がよく現れています。しかしながら、 のようにいくつかの問題点も明らかになってきました。

これに基づき、「しもふりレッド」をよりよいものにするためマイナーチェンジを図っていかうと考えています。 の雄の繁殖性については、他の純粋種系統豚（特にデュロック種）でもしばしば問題となっているようです。おそらく、近親交配の影響が出ているためだと考えられますが、その原因は明らかにされていません。この問題は種雄豚にとって非常に深刻であり、「しもふりレッド」においても血縁情報あるいは DNA レベルで原因究明していきたいと考えています。そのためには、多くの情報が必要となるので、万一、配布豚に繁殖性異常があった場合、できるだけ詳細にその状況を報告して頂きたいと思ひます。

については、特に前幅、肋幅がないという意見が多いようです。この問題については現在改良に向けた取り組みを開始しているので、その概要を紹介しします。

体幅を改良するにはどの部位の測定値を用いればよいのか、また、それを改良することにより「しもふりレッド」の特徴である産肉能力や肉質能力にマイナスの影響を与えていないかを検討する必要があります。そこで、造成時のデータを用いて、選抜形質と体尺測定値（胸囲、前幅、胸幅）の遺伝的パラメータを推定しました（表 1）。遺伝率は前幅が 0.41 と高く、胸囲、胸幅も中程度の遺伝率が推定され、効率的に改良できることが示唆されました。次に選抜形質との遺伝相関は、胸囲と胸幅は同じような傾向で背脂肪厚と高い正の相関が推定されました。すなわち、胸囲、胸幅の改良は、骨格的幅ではなく脂肪蓄積も評価してしまうことが推測されました。前幅は一日平均増体量と相関が高く、その他の選抜形質は低い値が推定されました。すなわち、前幅の改良は選抜形質に負の影響を与えることなく、発育には正の効果を与えることが推測されました。この結果から、体幅の改良として前幅を用いることとしました。次に各個体の育種価を推定し、前幅育種価の低い維持種豚同士を交配しないよう組み合わせる交配計画を策定しました。この指定交配による産子の期待育種価は、前幅で約 20% 向上し、選抜形質にはほとんど影響を与えないことが示唆されました（図 1）。現在、この指定交配を実施しており、今年の夏頃の配布から、その効果が期待されます。

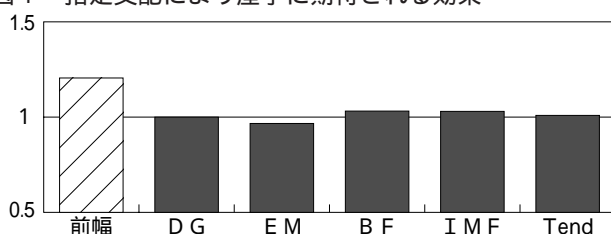
このように、生産者の皆様のご意見を取り入れながら、可能なものについては改良していきたいと思ひますので、今後もしも指摘の点があればご相談いただけるようお願いしします。

表 1 選抜形質と体尺測定値の遺伝的パラメータ

	D G	E M	B F	I M F	Tend	胸 囲	前 幅	胸 幅
一日平均増体量 (D G)	0.51	- 0.07	0.34	0.22	- 0.39	0.32	0.32	0.21
コース断面積 (E M)	- 0.30	0.49	- 0.41	- 0.26	0.21	- 0.06	0.19	0.01
背脂肪厚 (B F)	0.23	- 0.29	0.72	0.20	- 0.56	0.52	0.11	0.42
筋肉内脂肪 (I M F)	0.06	- 0.23	0.23	0.56	- 0.13	0.12	- 0.08	0.10
肉の柔らかさ (Tend)	- 0.34	0.19	- 0.36	- 0.21	0.50	- 0.49	- 0.15	- 0.35
胸 囲	0.20	- 0.08	0.34	0.14	- 0.21	0.33	0.44	0.50
前 幅	0.36	- 0.06	0.06	0.05	- 0.06	0.29	0.41	0.77
胸 幅	0.40	- 0.19	0.29	0.14	- 0.14	0.38	0.56	0.34

対角線：遺伝率、右上三角：遺伝相関、右下三角：表型相関

図 1 指定交配により産子に期待される効果



(種 豚 家 き ん 部 柴 田 知 也)

< 衛生便り >

牛の小型ピロプラズマ病

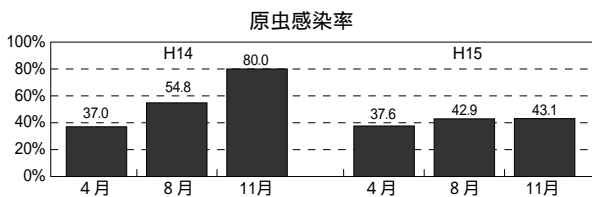
迫家畜保健衛生所

放牧牛の病気の1つに、小型ピロプラズマ病があります。ピロプラズマという原虫が牛の赤血球に寄生することにより、発熱、貧血などをおこす病気で、全国的に発生がみられています。放牧牛は、原虫を体内に持ったダニの吸血により次々と感染し、放牧中のストレス等をきっかけにして発症すると、流産や急死してしまうこともあります。また、急死とまではいなくても、貧血で体調が悪くなれば増体や受胎成績も悪くなるので、育成牧場にとってはこの原虫対策が最も重要な衛生対策になっています。

県北地域本吉町の町営本吉牧場は、通年放牧のホルスタイン育成牧場です。家畜保健衛生所では、ダニの活動する春から秋にかけて月1~2回牛の血液検査を行い、貧血や重度原虫寄生の牛の早期発見と発症予防に努めています。しかしここ数年、牛の原虫感染率や治療回数が増加してきたため、平成14年夏よりダニの駆除薬(牛体に直接かけて吸血を阻止する薬)を変更し、ピロプラズマ病撲滅へ取り組み始めました。

図は、本吉牧場の平成14年と15年の原虫感染率です。14年は春入牧した若牛の8割が感染してしまったため、前年からの越冬牛を含めた感染率が非常に高かったのですが、15年はその数がかかり減少したことがわかつています。以上、成果の見えた1年ではありましたが、このように牛の感染を防ぎながら牧場の原虫(原虫を持つダニ)がいなくなるのを待つには一般に3~5年はかかると言われており、今後も根気強い対策が求められています。

家畜保健衛生所は各地の公共放牧場で同じように検査をしていますが、放牧牛のストレスを軽減し、病気の発症を抑えるためにも、入牧前に少しずつ戸外に出す、餌を変えるなどの馴致をしていただければと思います。



(防疫班 西形葉子)

< New face >

(社)宮城県畜産協会
菅原 心也

はじめまして、平成15年12月より、宮城県畜産協会、経営支援課に勤務しております、菅原心也と申します。出身は宮城県仙台市で、大学学部生時代4年間を除けば宮城県を離れたことのない、生粋の宮城県人です。

現在、私は、東北大学農学研究科博士前期課程にも在籍し、不寐ながら本年3月までは二足の草鞋を履かせて頂くことになっております。大学では、資源環境経済学(所謂「農業経済学」)専攻の地域計画学分野において、食品廃棄物や家畜排泄物といった地域内未利用資源の有効活用について研究しております。自身の修士論文では、「ライフサイクルCO2分析による食品廃棄物飼料化の環境影響評価」をテーマに、海外から輸入した飼料穀物により豚の飼料を生産した場合と、食品廃棄物を乾燥させ豚の飼料とした場合、それぞれのプロセスで排出されるCO2量を定量化する研究を行っております。

これら研究過程の中で、家畜農家やJA、飼料製造業等を対象とした聞き取り調査を行ったことはあるものの、その件数は手指で数えられる極少数なものであり、また、研究の中で経済性分析について触れているながら、流通過程については知識が欠如しているのが現状でした。今、事業の中で、様々な畜産農家の方々や関係機関の方々との出会い、お話を頂き、新しい知識に触れる度に目から鱗が零れ落ちる思いです。以非研究者であった学生時代、「就職するならば、これまでの自分の研究成果を社会に還元できる場所へ」と考えておりましたが、今となっては「人生日々是勉強」と考えを改め直している次第です。

高校を卒業して10年経ちましたが、これからは社会人としての新しい人生のスタートだと考え、一度自分をゼロにリセットしました。ゼロである以上、失うモノは何らありませんが、逆に、社会人として積み重ねなければならぬものが沢山あるだろうと考えております。それが何なのか、就職一ヶ月足らずの非力な今の私にはまだ見えていませんが、一早く宮城県の畜産業という舞台の黒子を担う者となれるよう、日々精進していきたい所存です。

皆様、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

賀 春

宮城県農業協同組合中央会長	大堀 哲
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	徳能 利夫
宮城県信用農業協同組合連合会代表理事理事長	清水 敬一
宮城県農業共済組合連合会長理事	浅野 衛
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	砂金 甚太郎
宮城県農業公社理事長	大立目 謙侃
宮城県草地協会会長	太田 実
宮城県獣医師協会会長	高野 貞男
宮城県酪農協会会長	砂金 甚太郎
宮城県ホルスタイン協会会長	佐藤 正志
全国和牛登録協会宮城県支部長	佐竹 仁郎
宮城県牛乳協会会長	梅澤 盛夫
宮城県家畜商協同組合理事長	三戸部 栄一
宮城県養鶏協会会長	村上 寛
宮城県ホルスタイン改良同志会長	半澤 善幸
宮城県家畜人工授精師協会会長	野地 昭二
宮城県牛乳普及協会会長	砂金 甚太郎
宮城県食肉消費対策協議会長	佐藤 利吉
宮城県畜産協会会長	大堀 哲